

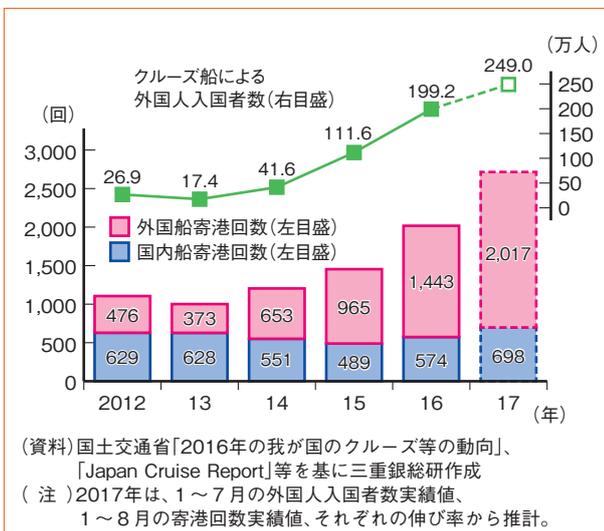
全国的に進められている観光振興による地域活性化を実現するうえで、クルーズ船が注目されています。クルーズ船には、国内船（日本船籍の客船）と外国船（外国船籍の客船）があります。外国船は、国内船よりも数や種類が多く、クルーズ船のランクによって、上位から「ラグジュアリークラス」、「プレミアムクラス」、「カジュアルクラス」の3つのクラスに分けられ、受けられるサービスの質や客室の広さ、料金などが異なります。また、船によって定員も違い、国内船の定員数よりも多い外国船がたくさんあります。そのため、クルーズ旅行には、豪華客船による世界一周旅行から、日本国内を周遊するツアーなど様々な形があります。

最近のクルーズ船の動向をみると、2016年のクルーズ船の寄港回数は、国内船、外国船ともに前年よりも増加しました（図表1）。とりわけ、外国船の伸びが高く、クルーズ船による外国人入国者数の増加につながっていると考えられます。2017年も、2016年を上回る水準になる見込みです。クルーズ船は、2016年に全国の123の港湾に寄港しましたが、2016年の港湾別寄港回数をみると、博多港（328回）が最も多く、長崎港（197回）、那覇港（193回）と続いています。九州・沖縄の港湾には、外国船の寄港が多く、韓国や台湾から距離の近い九州や沖縄に寄港するツアーが多くなっていることが考えられます。三重県・愛知県の港湾をみると、名古屋港（36回、うち外国船5回）、鳥羽港（6回、うち外国船1回）、四日市港（5回）、三河港（1回）となっており、クルーズ船誘致の取り組みが進められていますが、まだ増加の余地は残されています。そのようななか、四日市港では、2018年に「コスタ ネオロマンチカ」や「ダイヤモンド・プリンセス」といった外国船の寄港が予定されています（図表2）。日本に寄港するクルーズ旅行客の多くは、朝、港に船が着き、夕方出港するまでの間に、寄港地周辺の観光や、伝統文化の体験などのオプションツアーに参加するため、クルーズ船が寄港することで、クルーズ客や乗務員の飲食代・土産代などの旅行消費が増加するだけでなく、地場製品の販売や文化・歴史などを広める機会が広がります。

政府は、2020年の訪日クルーズ旅客数を500万人にするという目標を設定しています。目標の達成には、あと3年で現在の2倍の旅客数にする必要があります。クルーズ船の寄港誘致をさらに進めるだけでなく、クルーズ客の旅行消費を増やすような取り組みを行い、クルーズ船による経済波及効果を高めることが、地域活性化の実現につながると考えられます。

三重銀総研 調査部 研究員 伊藤綾香

図表1 クルーズ船による外国人入国者数と国内港湾への寄港回数の推移



図表2 四日市港のクルーズ船入港予定 (2017年10月～2018年)

入港日	船名	定員(人)
2017年11月15日(水)	ばしふいっくびいなす	620
2017年11月18日(土)	飛鳥II	872
2018年1月2日(火)	コスタ ネオロマンチカ	1,800
2018年1月6日(土)	飛鳥II	872
2018年3月15日(木)	飛鳥II	872
2018年6月24日(日)	ダイヤモンド・プリンセス	2,706
2018年8月26日(日)	ダイヤモンド・プリンセス	2,706
2018年9月16日(日)	ダイヤモンド・プリンセス	2,706
2018年10月7日(日)	ダイヤモンド・プリンセス	2,706
2018年11月4日(日)	ダイヤモンド・プリンセス	2,706

(資料)四日市港客船誘致協議会「入出港状況」
(注)「ばしふいっくびいなす」と「飛鳥II」は国内船。
「コスタ ネオロマンチカ」と「ダイヤモンド・プリンセス」は外国船。